

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	82	学校名	静岡県立浜北西高等学校	校長名	邑田 聡一
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に意欲的に取り組んでいる」と答える生徒 85%以上 ・「授業に満足している」と答える生徒 80%以上 	<p style="text-align: center;">おおむね達成できた。 パソコンを活用した授業が増加した。</p>	A	<p style="text-align: center;">生徒の自己評価は高いが、授業の取り組みが甘い生徒もいる。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・「進路実現のための努力をしている」と答える生徒 80%以上 ・新しい大学入試に対応した指導の実施（授業・検定・進路課外等） ・進路課外等の計画的実施 	<p>「進路実現のための努力をしている」と答えた生徒は全体で 84.5%であった。生徒に対して様々な場面で教科指導や面接・小論文指導等の支援を行うことができた。 各学年で生徒の実態にあった課外を実施した。</p>	A	<p>本校では総合型選抜、学校推薦型選抜を受験する生徒が多いため、面接・小論文指導を全教員で手厚く行い、成果を収めているが、一般選抜に向けて教科の学力を向上させる必要がある。課外など各教科で生徒の実態にあった指導を継続的に行っているため、今後の生徒の成長に期待したい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・月末読書量統計をとり、読書の推進を図る。 ・年間7冊（11月末6冊）以上の生徒 80%以上 	<p>年間では、平均9.2冊の読書量であり、昨年度の9冊より微増した。 「おすすめ本」コーナーや本のレイアウト変更など、多くの生徒が利用しようと思わせる環境づくりを行った。</p>	B	<p style="text-align: center;">読書週間、図書館だより、図書委員による啓発活動などを工夫したい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・（観点別評価）学校として、教科としての統一を図る。 	<p>特に問題なく観点別評価を実施することができた。</p>	A	<p style="text-align: center;">課題を解決し、さらに教科間の統一を図るようにしたい。</p>
	教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ授業一人年間1回以上、授業見学（他教科も含め）2回以上 ・Find アクティブラーナー視聴回数増加、研修の実施 ・中学校のPC活用授業参観1回以上 	<p>チャレンジ授業は着実に実施できた。授業見学についても概ね達成できた。 ICT活用研修を行い、授業に役立てた。 予備校等の教科指導力向上研修に2名参加した。 Chromebook の活用が一気に進み、授業だけでなく、総合的な探究の時間のツールとしても定着した。</p>	B	<p>多くの授業で工夫がみられた。授業見学2回以上を今後徹底させたい。 ICTを活用した授業や新教育課程を考慮した授業の実践例の共有化をはかるとともに、ICTの有効な使い方（旧来では不可能なことをICTの力で可能になる）を来年度以降模索したい。</p>

イ	「時を守り、場を清め、礼を正す」指導と規範意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 各学年初期・中期指導6時間以上 学年集会の開催年間8回以上、集会時の遅刻0% 時間を管理し、4点固定の中での家庭学習の開始時間を守ることができたと答える生徒80%以上 	<p>各学年におけるタイミングを見ての集会や全校集会の実施など効果的な指導ができた。</p> <p>家庭学習の開始時間を守ることができたと答えた生徒は全体で54.5%であった。</p>	B	<p>年度当初の初期指導はしっかりと実施できた。しかし、徐々に朝の登校時間が遅くなり、時間に余裕を持って行動できているとは言えない。タイムマネジメントという観点で見ると、さらに高いレベルでの指導が必要である。</p> <p>全生徒の半数以上が手帳を活用して家庭学習の開始時間を守ることができたが、約半数が守れていない。これは手帳自体を使っていない生徒数とも概ね一致する数字である。時間管理の大切さについて生徒が理解することが課題である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 整備委員会の活動年間5回以上 清掃用具点検年間3回以上 	<p>年間5回以上、整備委員会の活動ができた。</p> <p>年間3回以上、清掃用具の点検ができた。</p>	A	<p>エアコンフィルターの掃除を実演で説明することができた。清掃道具の管理・補充・整頓を徹底したい。</p> <p>掃除道具の移動が多かったため、こまめに確認をして防いでいきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 「自らすすんで挨拶ができる」「交通ルール・マナーを守る」と答える生徒80%以上 	<p>生徒アンケートでは「自らすすんで挨拶ができる」95.2%の生徒が回答。</p> <p>交通事故件数17件。</p> <p>浜松市「いっちょお！」(浜松市土木通報システム)の活用を呼びかけた。</p>	B	<p>生徒アンケートの結果は良いが、社会的な目線で考えればまだまだ指導する必要がある。</p> <p>交通ルール・マナーに関しては、命にかかわることでもあるので、継続的に指導をする必要がある。</p>

ウ	体系的なキャリア教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 「進路指導を含めたキャリア教育（総合的な探究の時間）が充実している」と答える生徒90%以上 	<p>「キャリア教育や進路指導が充実している」と答えた生徒は全体で88.8%であった。</p> <p>89.6%の生徒が「総合的な探究の時間」が充実していると答えた。</p>	A	<p>探究課の計画的な指導もあり充実していると回答する割合が多かった。目標が高かったため90%を若干下回ってしまったが十分高い数字であると考ええる。これを総合型選抜に活かすための方法を今後検討する必要がある。</p> <p>「何をもって充実している」と感じたのか、具体的なことを今後のアンケートや振り返りの中で把握していく必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 卒業前アンケートで「決定した進路先に満足している」と答える生徒90%以上 	<p>12月末に進路が内定した生徒に対して実施したアンケートで、「決定した進路先に満足している」と答えた生徒は99.5%であった。</p>	A	<p>高い数値となった理由として、進学では、総合型選抜、学校推薦型選抜で進路が内定した生徒が多いため、第1希望の進路を実現できた生徒が多いことが考えられる。就職では、ほとんどの生徒が9月に実施した1回目の採用試験に合格したことが考えられる。教員からの支援も十分であった。</p>
エ	国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 相互のプレゼンテーションの実施 浜北国際交流協会との連携 	<p>浜北国際交流協会との交流は進行中である。</p> <p>来校した台湾の先生と交流することができた。</p>	B	<p>留学生の積極的な受け入れや、オンラインでの交流の継続により、国際交流に関わる生徒数の拡大をはかっていきたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの交流3回以上 	<p>タイ王国シリントン学校（2回）・国立鳳山高級商工職業学校（2回）とオンライン交流を実施した。</p> <p>オンライン等で新たな交流プログラムを作成することができた。</p>	B	<p>オンライン交流を拡大することができた。</p> <p>本校の基本的プログラムの構築、継続、定着が課題である。オンラインを行う際、教室探しが困難なため、国際交流室のような教室があると円滑に行うことができる。</p>

大学や企業・地域・保護者等との連携や協働活動、貢献活動、広報活動（探究の時間を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・県大会出場 10 部活以上 ・1部活1ボランティア（交流）活動（地域貢献活動・協働・連携等）の実施 ・校内への普及体制（窓口）の確立 	<p>予選を突破しての県大会出場は 11 部活で達成できた。</p> <p>1部活1ボランティア（交流）活動はコロナ禍において難しかったが、外部と調整し動き始めることができた。</p>	A	<p>多くの部活動が活発に活動しており、充実した生徒の活動が見られる。</p> <p>ボランティア・交流活動に関しては、情報を提供し動き始めた。今後も、地域に目を向けて実施していきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の開催年 5 回以上 ・生徒による具体的活動の実施 	<p>各委員会でそれぞれ活動を実施できている。</p> <p>榎の葉祭や体育大会は、保護者や一般に向けて公開し、外部へ活動を発表することができた。球技大会など生徒主体の行事も成功させることができた。</p>	A	<p>委員会活動に関しては、それぞれの立場で様々な活動が行われているが、生徒の自主性、主体性をもっと引き出していきたい。</p> <p>学校行事は感染に注意しながらも、様々な工夫をしながら実施できた。今後も状況に応じながら生徒が積極的に参加できる行事を実施していきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・連携した防災教育の機会 2 回以上、地域防災リーダー育成と防災訓練の見直し ・保護者・地域の方の来校が増加する。 	<p>避難訓練は予定通り実施できた。地域防災訓練について、開催する地域が増えたこともあり、参加率が約 25%と増加してきた。</p>	A	<p>消防と連携した防災訓練の実施について検討したい。</p> <p>文化祭や体育大会の観覧者が増加した。来年度は保護者・地域の方の参加も検討している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・連携したキャリア教育の機会 3 回以上 	<p>1年生を対象に、静岡県西部地域局危機管理課職員による「HUG（避難所運営ゲーム）体験」を実施した。</p> <p>1年生を対象に、地元企業への見学会を再開した。</p> <p>2年生では、未来学校による講演、プレゼン講話、総探の日、において外部の人や企業とつながることができた。1年生も同じく総探の日に座談会を通して外部の方と連携できた。</p> <p>2月7日に、1・2年生合同探究発表会を実施した。</p>	B	<p>3回以上の実施はできなかったが、内容はよかった。コロナ禍により現場へ行くことができなかった昨年度までと異なり、実際に働いている姿を見ることは職業について理解するために大事である。</p> <p>この1年は、外部とつながる環境が十分に確保できた。来年度オンリーワンの予算がない中、どの程度同じような活動ができるかを検討する必要がある。</p> <p>合同探究発表会を通して、教員・生徒が何を感じ、それをどう来年度につなげるかが課題である。</p>

オ	大学や企業・地域・保護者等との連携や協働活動、貢献活動、広報活動（探究の時間を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・連携又は協働した安全教育の機会 1 回以上 	<p>熱中症講座を浜松医療学院専門学校の杉山先生を講師に招き各部活動マネージャー及び部員・運動部顧問に実施した。</p> <p>薬学講座を浜松医科大学附属病院の千田 Dr を講師に迎え全校生徒対象に実施した。</p> <p>思春期講座は NPO 法人 SRRP 研究会の方を講師に迎え 1 年生対象に実施した。</p>	A	<p>どの講座も講演後のアンケートでは 9 割以上の生徒が「理解できた」と回答した。今後も生徒の現状に合わせた内容の講座を企画し、講師との詳細な打ち合わせを行っていききたい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・探究検討委員会を毎月開催 ・3 年生の進路を意識した探究活動の構築 ・3 年間の流れを検討・修正していく。 	<p>前年度の取り組みを意識しながら、各学年の活動を進めることができた。3 年間の流れがほぼできた。</p>	B	<p>3 年間の流れが確立できたが、担任（主に指導に当たった教員）がどう感じたか、今後意見を集約する必要がある。</p> <p>総探を成功させるための体制づくりや委員会を機能させることが大きな課題である。</p> <p>各学年のルーブリックを作成し、年度当初に生徒・教員に示したい。内容だけでなく、各学年で身に付けたい力を把握しながら活動を実施し、評価につなげていくことが理想である。ただ、作成したルーブリックをもとにどのように評価していくかもまた課題である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・HP 更新月 4 回以上、学校便り等の作成や SNS の利用で広報活動を充実させる。 ・中学生向け学校紹介動画をリニューアルする。 	<p>「あらたまだより」を 2 回発行することができ、地域、保護者に学校のことを広く知らせることができた。</p> <p>HP の閲覧数が昨年度より 1.7 倍と増加。これは、修学旅行の様子を随時配信を行ったためである。また 1 日体験の折の学校紹介ビデオも好評であった。</p>	A	<p>多忙なため、余裕を持ったスケジュールで取り組む必要がある。特に、学校紹介ビデオはより早い段階で取り組みたい。</p> <p>地域への広報が課題である。</p> <p>HP の閲覧は増加しているので、さらに更新回数を増やしていきたい。</p>

カ	業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・分掌、運営委員会等で意見の集約を図る。 	現状に即し、少しずつ行事の見直しが行われている。	A	人員減少に伴う運用方法のスマート化は今後も考える必要がある。学校行事ではない業務の増加が懸念材料となっている。
		<ul style="list-style-type: none"> 部活動計画表の作成（年間及び月間）、提出 各部活動、年間 80 日以上 の休養日の設定を心掛ける。 	<p>各部活動が適切な休養日を設け、計画的な活動を実施できている。</p> <p>部活動データフォルダの活用に関して、練習計画や試合結果などを定期的に確認できなかった。</p>	B	<p>計画的で有効な活動を意識し、活発な活動が実施できている。</p> <p>部活動データフォルダの活用に関して、生徒課としてしっかりと管理していかなければならない。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 前年以上に NES の活用が増加する。学校掲示板の効率的な活用を促進する。 	学校掲示板を活用し、学校行事や PTA 活動の連絡や報告を、職員に対して効率的に行うことができた。	A	今後も継続して学校掲示板を活用し、職員への連絡や報告を効率的に行いたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 計画的な業務計画の推進 学校経営予算運用の効率化 業務分担の明確化 	<p>計画的に業務を進めることはできた。</p> <p>計画的かつ早期の予算執行により効率化を図ることができた。</p> <p>効率的な業務分担は達成できておらず、業務の偏りが見受けられた。</p>	B	業務の効率化を常に求めて、働き方改革を推進していく。